

思考力・判断力・表現力を高める国語科指導法の研究

～第5学年 文学的文章の指導を通して～

始良市立蒲生小学校 教諭 高橋 美香

目次

1	はじめに	2
2	研究主題	2
3	研究主題設定の理由	2
4	研究の仮説	3
5	研究の構想	3
6	研究の実際	4
	(1) 教材の特徴を生かした指導の工夫	
	(2) 対話活動を位置付けた課題解決的な学習過程の工夫	
	(3) 言葉による見方・考え方を働かせた言語活動の工夫	
	(4) 検証授業（6／8）	
	(5) 検証授業（8／8）	
7	研究の成果と課題	10
	(1) 成果	
	(2) 課題	
8	おわりに	10

参考文献

- 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年度版告示)解説』
- 東京教育研究所 『確かな国語力を育てる授業の研究』
- 東洋館出版社 『「深い学び」をうむ授業改善プラン 文学』
- 東洋館出版社 『立体型板書でつくる国語の授業 文学』

1 はじめに

経済協力開発機構（OECD）が79か国・地域の15歳を対象にした2018年度実施の学習到達度調査（PISA）の結果を公表し、日本の高校1年生の読解力は15位と前回の8位より低下したと発表した。根拠を示して考えを述べる力、情報の真偽を見極める力などを測る問題に課題があるという。これから、未来に向けて希望をもち成長する子供たち。世界の人たちと対等に向き合っていかなければならない子供たち。その子供たちに、自分の言葉で自分の思いを伝えられるように育てていきたいと思う。

2 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める国語科指導法の研究
～第5学年文学的文章の指導を通して～

3 研究主題設定の理由

(1) 今日の教育の課題

今の子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、社会は、めまぐるしく変化していき予測困難な社会となっているのではないかと考えられている。そのような時代の変化の中で生きていく子供たちに、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱を育てていく必要があると言われている。一方で、国内外の学力検査の結果から、読解力に課題があること、複数の情報を関連付けて理解することなどに課題があると示されており、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が大きな課題となっている。そこで、各教科の指導のねらいを明確にして更なる授業改善を図っていく必要があるが、各教科の基礎となる国語の指導が重要であると考えた。

(2) 児童の実態より

これまでの教師生活から、学年が上がるにつれて、国語離れが大きくなり、苦手意識をもつ子供が多くなっていくことがあった。「長い文章から答えを見付けられない。」「文章を読む気力が出ない。」「何が書いてあるのか分からない。」と苦勞している子供たちを指導するのも難しいところがある。国語の場合、「やったあ。」「できたあ。」という達成感も子供たちの中になかなか生まれてこない。また、中学・高校になったときに、国語の問題への向き合い方や基礎的・基本的な内容が身に付いていなければ、なかなか学力が上がらないのも国語の教科の特性だと感じる。

今年度、担任している5年生は、鹿児島学習定着度調査を目標に力を付けていかなければならない子供たちでもある。鹿児島学習定着度調査を実施した際に「できた。」「分かった。」「やり抜いた。」と達成感を味わい、国語の面白さを十分に感じてほしい。そして、文章問題に出会ったときに、「問題を解く」という考えから、「この文章から何を学べるだろうか。早く読みたい。」という気持ちになってほしい。国語の力を身に付けることは、子供たちが社会に出たときに周りの人たちと対等に関わることにつながる。そして、よい意見を取り入れ、自分の意見に加えて考えられるようになり、前向きにたくましく生きていくことができる。子供たちに自信をもたせ、気持ちを楽に生活できるように生きる力を国語の学習を通して身に付けさせたい。また、多くの本に親しみ、先人に学びながら心を育てていってほしいとの思いもある。

【令和3年度蒲生小5年1組 NRT結果】

領域別	5年1組	観点別集計	5年1組
話すこと・聞くこと	101	知識・理解	93
書くこと	97	思考・判断・表現	99
読むこと	98		

国語の領域・観点結果は、全国の正答率より低い。また、1・2段階の子供が半数近くおり、下位の子供たちを引き上げる手立てと上位の子供たちをさらに伸ばす指導が必要になっている。この結果から、国語の基本となる「読むこと」の教材の特徴を生かし、書く活動を取り入れ学力を定着させたいと考える。

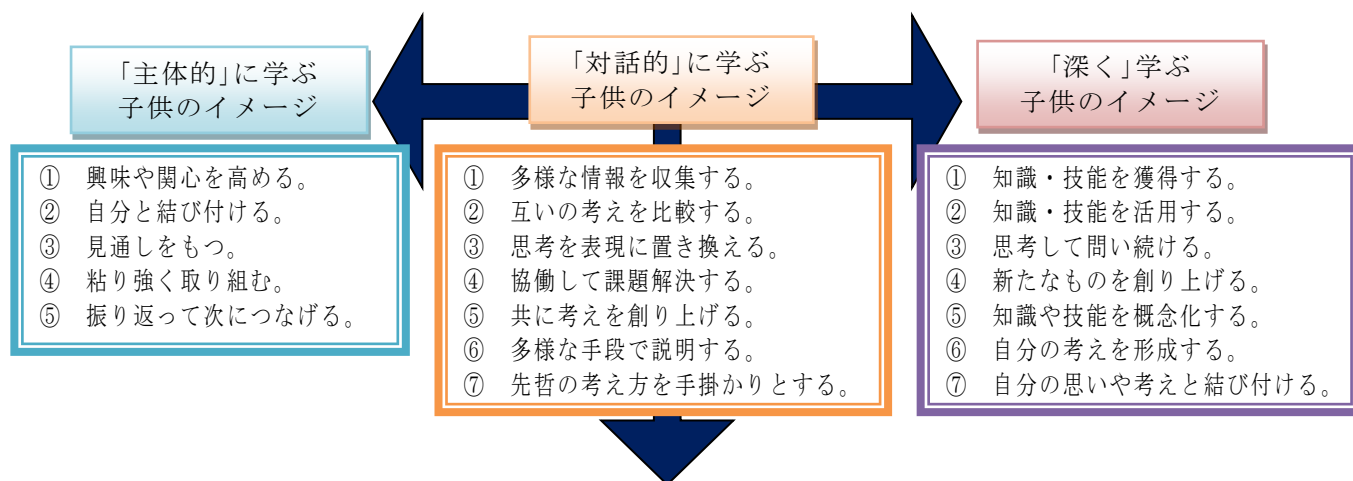
4 研究の仮説

教材の特徴を分析したことを学習過程や交流活動に生かし、言葉による見方・考え方を働かせた指導を行えば、確かな読みにつながり、思考力・判断力・表現力が高まるのではないかと考える。

5 研究構想

(1) 学習指導要領より

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業・学習過程の改善・充実を図る必要性を求めている。「小学校学習指導要領解説 総則編」より「主体的・対話的で深い学び」の子供のイメージを次のように捉える。



思考力・判断力・表現力

めざす子供の姿

- 読書に興味・関心をもち、自分の読みと対話しながら粘り強く文章を読む子供
- 交流活動において共有したことを自分の考えに生かし、高めることができる子供
- 根拠を基に考え想像して文章を読み、自分の経験や知識と関連付けながら自分の考えを書くことができる子供

(2) 授業改善のポイント

授業を行うにあたって、次のような授業ポイントを基に、指導計画を作成した。

授業改善のポイント

- ① 主体的に学習の取り組めるように学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- ② 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどのように設定するか。
- ③ 学びの深まりを作り出すために児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。
- ④ 国語科においては、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。

6 研究の実際

単元名 「物語の全体像をとらえ、作品にこめられた作者のメッセージを考えよう。」
教材名 「5年 たずねびと」

第5学年の教材「たずねびと」は、主人公「綾」が駅前のポスターに自分と同じ名前の「楠木アヤ」を偶然に見つけて思いを巡らしていく物語である。また、主人公が、広島の旅を通して、これまで知らなかった原爆や戦争、その時代を生きた人々の思いを想像し、これからの生き方を考えるという物語である。5年生の子供たちが主人公に自分を重ねながら、学習を進めることができる教材である。

ねらい

- 【知識・技能】 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える力を付けるために、比喩や反復などの表現の工夫への気付きをまとめて整理する活動を通して、作品の魅力に迫り、自分の読みを確かなものにできるようにする。
- 【思考・判断・表現】 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力を付けるために自然描写、行動描写などの優れた叙述について、自分なりの考えをまとめる活動をとおして根拠をもとに作品の魅力を伝えられるようにする。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読む力を付けるために、文章を読んでまとめた意見や感想を共有する活動をとおして、主体的に自分の考えを深められるようにする。

読むことの指導事項

【第5・6学年】〔思考力、判断力、表現力等〕

- Cイ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に考えること。
Cエ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすること。
Cオ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
Cカ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

各領域と関連させた指導事項

【第5・6学年】〔思考力、判断力、表現力等〕

- Aア 目的や意図に応じて話題や材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること。
Aオ 互いの意図を明確にしながらかし合ひ、考えを広げたりまとめたりすること。
Bウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

主体的・対話的で深い学びへの手立て

- 1 言語活動を位置付けた課題解決的な学習過程の実現を行うために、友達の見方と自分の見方の共通点や相違点を見付け交流する活動を行い、物語の魅力や作者の思いに気付くことができるようにさせる。
- 2 言語活動を通しての指導と評価の一体化を行うために、教材文を読んで、登場人物の相互関係や心情などの根拠を基に感想を書く活動を行わせる。
- 3 言葉による見方・考え方を働かせた言語活動の実現を行うために、心情や場面の様子が伝わるように音読する活動を行い、語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつようにさせる。

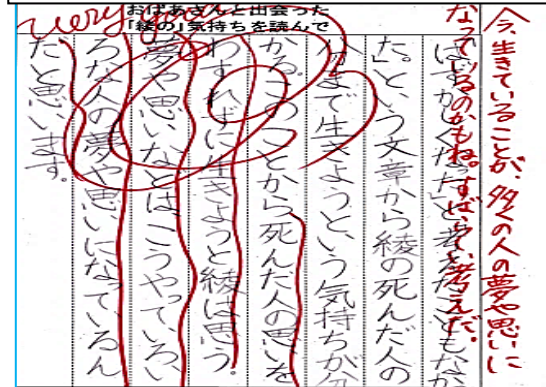
(1) 教材の特徴を生かした指導の工夫

この「たずねびと」の学習をする際、事前に行った実態調査では「戦争、原爆は怖い。恐ろしい。」「同じ名前に会うなんて不思議な話。なぜ、広島まで探しに行ったのか。」という意見が圧倒的に多く、戦争の知識についてもほとんどないことが分かった。この結果から、慎重に授業を進めていかないと「戦争は怖い」「不思議な話」という学習で終わってしまい、登場人物の気持ちの成長や変容を読み取ることが難しいのではないかと予想された。そこで、本授業を行うにあたって、ねらいを達成するために、多くの文章や言葉、表現の中から、気付かせたい言葉や表現、大事にしたい情景描写、それぞれの登場するものが登場人物に何を伝える役割をしているのかを教師側が、しっかりと上での授業を進めていかないと最終ゴールにおいて、子供の読解や理解にずれが生じる恐れがあると考え、教材分析を行い教材の特徴を生かした指導を行うことにした。

(3) 言葉による見方・考え方を働かせた言語活動の工夫

ア 文章や言葉を基に自分の考えを書く手立て
単元のゴールを「物語の全体像を想像し、作品に込められた作者のメッセージを考え、伝え合おう。」と設定した。最初の時間に、メッセージを書く試行を行ったが、「戦争は恐ろしい。」「命を大切にしよう。」という内容が多く、作者の思いは、それだけではないはずだと気付いた子供たちは、学習して読み取ったことを感想にまとめていく必要があると考えた。文章を書く際は、1文目「根拠」2～3文目「自分の考え・感想」を書くようにして、大事な言葉や内容を落とさないようにさせた。

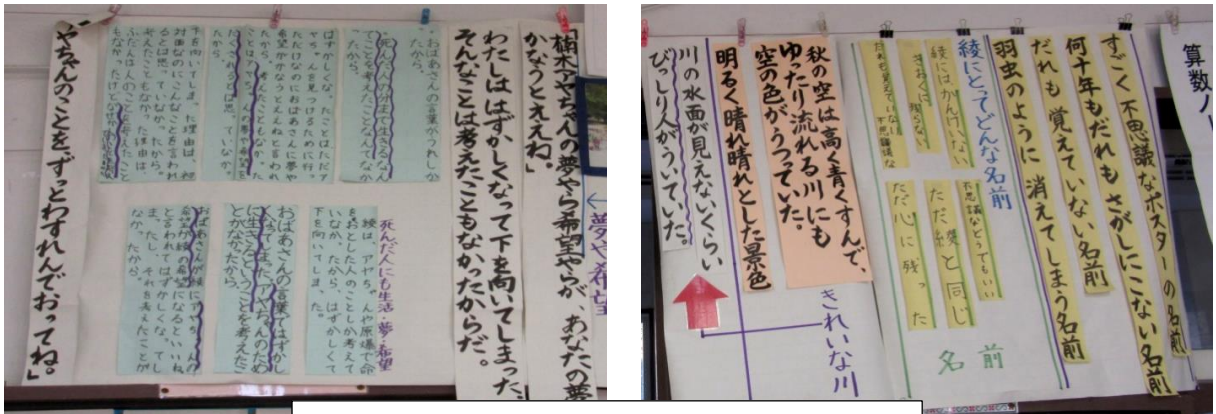
「 」の文章から、綾の○○○な気持ちが分かる。このことから、綾は、～～と思う。



毎時間の読みの変容を実感させる感想

イ 言語環境の工夫

子供たちの読みの深まりと登場人物の心情の変化、教材分析における取り上げたい言葉や文章を掲示して、読みの手がかりとした。掲示物の中には、子供たちが交流において深めた読みも掲示し、学習の積み重ねを大事にした。

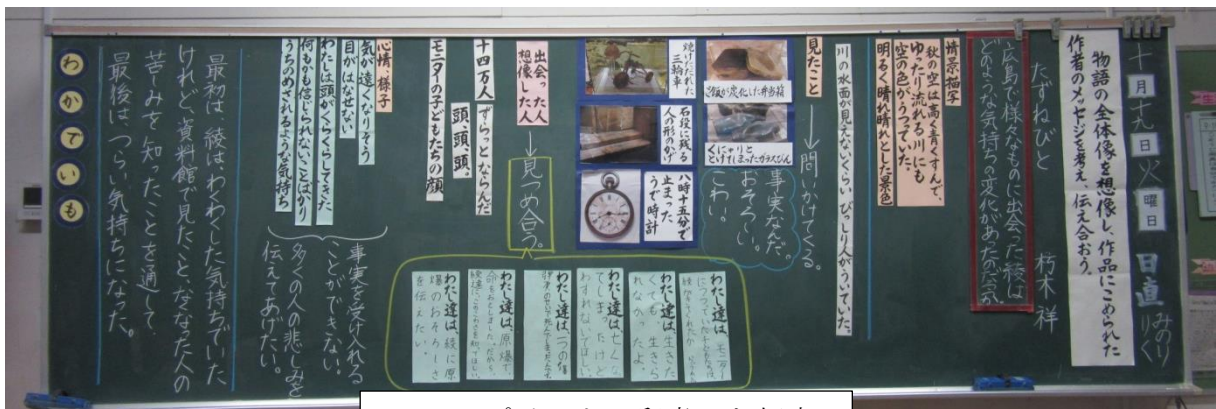


子供の読みの深まりを実感させる言語環境

ウ 板書の構造化の工夫

板書の構造化を行うにあたって、5つのポイントに留意した。

- 教材の特性を把握する。
- 子供たち（グループ）の思考を可視化し、変容を板書する。
- 子供たち（グループ）の考えを価値付けし、考えを関連させながら、思考の深化（まとめ）につなげる。
- シンプルな板書にする。
- 子供たちの考えを取り入れながら、まとめを子供たちの言葉で行う。



5つのポイントに留意した板書

(4) 検証授業 (6 / 8)

目標 広島での出来事を振り返る「綾」の中の浮かび上がってきたものや情景描写を表す言葉に着目し、「綾」の気持ちの変化や思いを話し合う活動を通して、「綾」が広島で気付いた大切なことを想像し、自分の考えをまとめることができる。

主な学習活動	手立ての効果
<p>1 本時の場面を音読し、学習内容を確認する。</p> <div data-bbox="284 465 922 633" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">広島で出会った様々なもの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おばあさんとの出会い</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">わたしの心にうかびあがったもの</div> </div> <p>2 本時のめあてを設定する。</p> <div data-bbox="284 689 922 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「綾」の心にうかび上がった大切なことは、どんなことだろう。 </div> <p>3 最後の場面を読み叙述や情景描写から、広島の旅を通して綾の「ものの見方や考え方」が変容していることを話し合う。</p> <div data-bbox="284 925 922 1182" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>C: 「ただのきれいな川」から、広島で見たものやおそろしい事実を知る経験を通して、「おそろしいことやつらい出来事を知っている川」に変わった。</p> <p>C: 「ただのポスターの名前」から、名前しかない人、モニターの人々、おばあさんの言葉から、「名前」「数」が、「確かに生きていた人の名前」だと実感できた。</p> </div> <div data-bbox="292 1205 938 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ただの名前」からの読みの変容</p> </div> <div data-bbox="292 1529 938 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ただの川」からの読みの変容</p> </div> <p>4 綾にとって「アヤ」は、どんな存在だったのかを話し合う。</p> <div data-bbox="284 1865 922 2000" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 大切なことを教えてくれた存在 考え方を変えてくれた存在 特別な存在 </div>	<p>○ 学習内容の確認 → <u>音読の効果を生かす。</u></p> <p>○ 課題解決の見通しをもたせるために、これまでに広島で出会った様々なものや人が「綾」の気持ちに大きな変化をもたらしたことを想起させた。 → <u>掲示物の効果を生かす。</u></p> <p>○ 「綾」の「ものの見方や考え方」を大きく変えたものは何かに気付かせるために、綾にとって大きな意味をもっていなかった「川」や「名前」が、どのような意味に変容したのかを考えさせる。 → <u>「川」と「名前」を全場面で意識させ、交流の積み重ねの効果を生かす。</u></p> <div data-bbox="962 1171 1377 1462" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>C 綾にとって、最初は、何でもないただの名前だったけれど、広島で様々なものを見て、一つ一つの思いがこもった名前になったと思う。</p> </div> <div data-bbox="962 1485 1377 1697" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>C きれいな川は、恐ろしい出来事を知っている川。広島歴史を知っている川だと思う。</p> </div> <p>○ 綾の変容の要因になった「楠木アヤ」に気付かせることで「楠木アヤ」が、綾にとって、どんな存在であるのかを考えさせる。 → <u>物語を想像して読んできたことを生かして、綾自身の成長や気づきを「楠木アヤ」の存在に重ね合わせる。</u></p>

7 研究の成果と課題

国語科における意識調査を行った。(調査日 令和3年12月10日 調査人数 22人)

1 国語は好きですか。	好き 10人 まあまあ好き 9人 嫌い 3人
2 国語が得意になりましたか。	得意になった 12人 まあまあ得意になった 9人 苦手なまま 1人
3 国語の学習で、できるようになったと思うことは、どんなことですか。	・ 登場人物の気持ちを考えて感想文を書けるようになった。・ 登場人物の心情を考えられるようになった。 ・ 文章を上手に読むことができるようになった。・ 文章を書く順番が書けるようになった。
4 もっとできるようになりたいと思うことは、どんなことですか。	・ 作者の伝えたいことを素早く読み取れるようになること ・ 文章を上手にまとめられるようになること ・ いろいろな本を読むこと ・ 考えを詳しく書けるようになること ・ 情景や心情を読み取れるようになること
5 国語の学習を生かしたことはどんなことですか。	・ 文章をまとめるのが上手くできた。・ 読書のときに、考えながら読むようになった。 ・ 読書のときに登場人物の心情や文章構成の工夫を見付けられて、より面白く読むことができるようになった。

(1) 成果

- 教材の特徴を生かした指導の工夫をしたことで、精選した授業構成を組み立てることができ、取り上げたい言葉、交流させるべき内容を明確にして、全員で同じ方向で授業を進めることができた。
- 対話活動を位置付けた課題解決的な学習過程の工夫を行ったことで、感想の紹介に終わるのではなく、相互の考えを比較検討し、叙述と関連させながら、活発な交流を行えるようになり、交流内容も深まった。
- 言葉による見方・考え方を働かせた言語活動の工夫をしたことで、身に付けさせるべき文章構成や文末表現などを継続して指導することができた。情景や心情、行動から分かる主人公の気持ちを想像できるようになった。
- 継続して書く活動を設定したことで、子供が、書くことへの抵抗がなくなり、書けるようになった達成感や自信を実感している姿が見られるようになってきた。文章を書く型を提示したことで、交流する際もポイントを絞った交流ができ高め合うことができた。

(2) 課題

- △ 文章を書く型や交流の方法について指導してきたが、型や方法をしっかり身に付けさせた後は、子供たち自ら論理的に発言したり、文章を書いたりすることにつなげる手立てが必要である。
- △ 多様な考えを交流させるために、教師の発問が重要になる。思考を揺さぶる中心発問を明確に設定して、授業構成することが大切である。
- △ 国語の学習で、何ができるようになったか実感できていない子供もいる。できるようになる到達点を明確にしたり、単元の終末で、分かったことをしっかりと考えさせて達成感を味わわせたりする必要がある。

8 おわりに

国語を楽しみ、読書に親しみ、学んだことを一人一人の生き方に生かしてほしい、というのが私の願いである。「たずねびと」の学習では、子供たちは、主人公「綾」の気持ちを丁寧に読み進め、同じ5年の綾と重ねながら作者のメッセージを探っていった。少しずつ読書につながる振り返りを書いている子供も見られるようになってきた。これからも子供たちの生き方や読書生活に生かせるような国語の指導を続けていきたいと思う。

